

# INTERVIEW

飯塚市立病院 管理者  
武富 章先生



【プロフィール】 武富 章先生 福岡県出身. 1983年自治医科大学卒業. 1992年学位取得. 1985年福岡県立嘉穂病院内科, 1987年赤池町立病院内科医長を務める. 1996年方城町立医療センター所長. 2005年筑豊労災病院内科部長・地域医療連携室長. 2008年飯塚市立病院管理者. 現在, 福岡県へき地医療支援機構担当医師, 自治医科大学法医学教室非常勤講師, 福岡県立大学看護学部非常勤講師を併任.

## いつもは病院, 時々へき地. その拠点として

聞き手: 山田隆司 地域医療研究所所長

### ケアマネ講座のどんたく先生, 誕生

山田隆司(聞き手) 今日飯塚市立病院に武富 章先生をお訪ねしました. 病院の新棟完成を間近に控えているということもありますので, そのお話も伺いたと思います.

先生は福岡の卒業生で, この病院の開院と同時に管理者という重責を担ったわけですが, まずはそれ以前の経歴をご紹介いただけますか.

武富 章 私は昭和58年卒業の自治医科大学の第6期生です. 卒業後の2年間の初期研修は, 国家公務員共済組合浜の町病院で行いました.

山田 大きい病院ですか.

武富 はい, 大きい病院でしたね. 福岡の県立病院は200~250床のあまり大きくない規模のところが多かったのです. そのため初期研修は大きい

病院で受け、県立病院には3年目に行き初期研修のローテートで足りなかった内視鏡などを学ぶことになっていました。私は3年目に県立嘉穂病院(現在の済生会飯塚嘉穂病院)に赴任し2年間いました。5年目からは町立の診療所、当初赤池町立病院だったのですが診療所になり、そこに3年間いました。それから自治医大の法医学人類遺伝学教室に1年間後期研修で行きました。

**山田** 池本卯典先生のところですね。どうしてそこに行かれたのですか？

**武富** 法律的なところにけっこう興味があって医事法学を学びたかったのですね。もう一つは臨床医学といいますか、人間は死ぬ時にどういうかたちで死んでいくのかを知りたいと思い、そういった実験なり研究ができないかなと思ったのです。ところが自治医大の法医学教室は、人間生物学的なこと、血液型とか親子鑑定など、比較的生きた人間を相手にする学問が主なので、その目的はかなわなかったのですが、でもいろいろなことを勉強させてもらいました。

**山田** 池本先生は卒業してから検死のことを電話で尋ねたりしても親切に教えてくださったり、とても印象に残っている先生ですね。そこに1年行かれていたわけですね、初めて知りました。

**武富** 当時、電気泳動法による遺伝形質の検出やDNAの遺伝子多型の研究が盛んに行われていたので、私もその研究をしようかと思ったのですが、最初の1週間で「あまり向いてないぞ」と言われてしまい(笑)、「どうしてですか？」と聞いたら、「ナマモノを扱うのはあまり得意ではないだろう」「腐らないものを扱ってはどうか」ということで、結局は遺伝形質の親子鑑定の基本となる確率論をコンピュータのプログラムではじき出そうというような研究でお茶をにごしました。

**山田** それでまた戻ってこられたのですか。

**武富** はい。戻ってきてからは現在の八女市にある

県立黒木病院に行きました。そこは20床で産婦人科の院長と内科医の私とで医師は2人でした。その院長が退任する時に本当は閉院する予定だったのですが、私の前任の先生から「今、身寄りのない60代の喉頭癌の患者が入院しているので看取ってほしい」と言われていたのですね。そうしたら赴任してから2日目の夜にその患者さんが病院で亡くなって、身寄りがなかったので社会福祉協議会の車が迎えに来てそこに乗せられて病院を出たのですね。お見送りをしていると、1匹の螢がヒュ〜と矢部川から病院のほうに飛んできたのです。「おお……！」と思いました。なんだかとても詩的で、ここはいいところだなと思いました。

そこに1年いて、筑豊の方城町(現:福智町)に行きました。最初の1年間は義務年限だったのですが、その後も人が足りないということで県に残り、最初の4年間は県からの派遣で5年目以降は町の職員になって8年、通算13年いました。

**山田** そこでの地域医療の歴史が長いのですね。

**武富** そうですね。そこで訪問診療も本格的にやりましたし、学校医をしたり予防接種などに手を染めたりしたのもそこが最初です。

**山田** 介護保険のはじまりのころに関わったわけですか。

**武富** 1998年の秋に第1回の介護支援専門員実務研修受講試験が始まったので、方城にいる時に受けることになりました。自分1人で勉強すればよかったのですが、診療所の看護師や町の社会福祉協議会の介護福祉士が「先生、教えてください」というので、いろいろ本をあさって模擬試験問題なども作りました。それがけっこう好評で「発表したほうがいい。世の中に広く知らしめたほうがいい」と言われ、その気になってしまってほとんど知識のなかったホームページを自分で作り、そこに掲載したのです。そうし